# 開催レポート

| | |
|---|---|
| イベント名 | キャリア研究会セミナー |
| 開催日 | 2025 年 10 月 16 日（水）19:00～21:00 |
| 場　所 | 五反田会場 |
| 会　費 | 2,000 円 |
| 内　容 | 日本の農林水産業と食ブランド<br>講師：臼井真美（株式会社クリアリンクファーム　代表取締役） |
| 参加者 | 会場 16 名、録画希望 6 名　計 22 名（うち欠席者 1 名） |

幸せな食卓を創るという理念のもと、長らく畜産にかかわり、田畑での新しい農業も始められているほか、産官学連携に関して 400 社以上のコンサルティング実績のある臼井さんから、日本や世界の食事情を伺い、これから自分たちで何ができるかを考えました。

## 日本の食は転換期にある

不安定な世界情勢や、エネルギー問題、世界的なインフレなど不安な材料も多いところ、変化はチャンスでもあり、インターネットを通じた世界とのコミュニケーション、好調な業績が続く大企業の設備投資やロボット技術の進展による飛躍も期待できるとのこと。

日本の文化を海外に売り込む「クールジャパン戦略」の一環として、酒類をはじめ、食に関し輸出を増やしており、インバウンドにより、珍しく目標が上振れしているほどとのことです。

また、2022 年に農林水産省が、2030 年に化学農薬の使用量を 10%削減、25%の農地を有機にするなどを目指す戦略を発表しました。

しかしながら、農家のほとんどが個人経営で、親族以外の後継者がほぼおらず、労働力を外国人労働者に依存していることから、今後の農業従事者不足や、食料だけでなく、種や肥料など資材も輸入に頼っているなどの不安材料もあります。



内容、写真、イラスト、図表などの無断転載は一切お断りいたします。
©Career Research Association.

## 私たちの食を守る戦略

生き残れる１次産業には、小さな連携、四方よし（三方よしに環境、自然よしをプラス）、良好なコミュニケーション、プロデューサーの存在、身の丈を知る、ブランディング、連携体制、信頼感、ビジネスモデル、継続できる仕組みが必要だそうです。

例えば、「関さば・関あじ」など成功するブランドは、価値があり、約束を果たして明確な基準を設定し遵守）いることや、成功事例として、「子供に安心して食べさせせられ」というコンセプトを明確にした株式会社ブラウンシュガーファーストや、連携やメディア発信で、食によるまちおこしに成功した厚木シロコロホルモン探検隊をご紹介頂きました。一方で認識の甘さや、連携を断ってしまったことから破綻した事例もあるとのこと。

農家が成功するには、

- 理念を持つこと、事業計画を作ること
- 人材、後継者の育成
- 古くて新しいを作り上げる
- 環境と生きる
- マーケティング　見せ方の独自性
- コミュニティ　連携

が必要と説明いただきました。

## 私たちができること

質疑応答では、予定していたディスカッションを割愛するほどの多くの質問が寄せられ、臼井さんから、日本の食品ロスが輸入量と同じくらいあり世界で一番多いかもしれないこと、廃棄食品を減らすだけでは資材を輸入に頼る日本では食糧難を解決するのは難しいことなどを回答いただきました。

また、形の悪い野菜が畑で廃棄されるのは価格が全く違うからとのことで、流通させるには、女性が声をあげて、子供たちに伝えることがきっかけになるかもしれないとのお話のほか、私たちができることとして、

- いざというときのことを考えておく
  - 異常気象、有事などに備えて食べ物の調達方法や、そのコミュニケーションの確



内容、写真、イラスト、図表などの無断転載は一切お断りいたします。
©Career Research Association.

保

- リアルで早く、正しい情報を得る
- １次産業の現実を学ぶ
  - 本質を学ぶ。現場を経験する。ベランダ菜園でもいいので育ててみる。AI に頼らず、自分の頭で考える。
- 四方よしが大切

とのアドバイスを頂きました。

具体的にはマルシェなどを利用したり、自分の五感に響くものに関わっていくのはどうかとのご提案も。

参加者からは、必要な分だけ買えるだけでなく、包装資材の無駄を省ける量り売りの利用、規格外野菜の購入でポイントが付くなどの仕組みづくりの提案、また賞味期限についても、数値を鵜呑みにするだけでなく自分で考えることも大切なのではとの時間ぎりぎりまで活発な意見が出ました。

誰にとっても身近な食の問題。このセミナーをきっかけに、参加者全員が自分の頭で考え続けることが重要と感じました。

内容、写真、イラスト、図表などの無断転載は一切お断りいたします。
©Career Research Association.

参加者の声　※参加者アンケートより抜粋

- 質問もしましたが食ロスや農家支援問題を上手くポイ活に繋げられたらと思いました。若者達に現状知ってもらい拡散する方法ありますね。
- 農業の現況は理解でき、危機感も持つべきかと情報は受け止めたものの、結局は何をすればいいか、せめて何から心がけて生きて行けばいいか、いまいちしっくり来なかった点がありますが、あの短時間での講義程度ではシェアしきれない日本の深い問題もあるのでしょうと感じました。
  今、大人がこれからの未来に繋がる子供達のために何をすべきでしょうか。
  テーマが大きすぎて自身の勉強不足を痛感させられました。
- 途中からの参加となりましたが、食についての貴重なお話をお聞きすることができ、素敵な講演をありがとうございました。
  現在の農業の現状や今後私たちにできることはまだ答えは見つかっておりませんが、自分の頭で考え何か貢献できることはないか模索したいと思います。
- カロリーベースの食糧自給率が 38%だということは認識していたが、輸入依存度が 95%ということに衝撃を受けた。もし輸入がストップしたら肥料や種が入手不可能となる。フードロスの削減など自分ができることから始めたい。

※所属及び役職は、開催当時のものです。(敬称略)

キャリア研究会についてはこちらから
https://career-r.com/



内容、写真、イラスト、図表などの無断転載は一切お断りいたします。
©Career Research Association.